

## ようやくASEANに加盟出来た 東ティモール

北原 巖男

ふるさと伊那市の皆さま、こんにちは。

2026年午年がスタートして、早や3か月。大変厳しかった伊那谷の寒さも緩み、皆さまには、ここに春の息吹を感じていらっしゃる頃かと拝察申し上げます。それぞれのご活動にお忙しい毎日と存じますが、くれぐれもご健康には気を付けられますよう、そして、日々の車の運転を始め交通安全につきましては、その徹底を幾重にもお願いを申し上げます。

さて、伊那市民の皆さまと温かな交流を続けております東ティモールは、昨年10月26日、マレーシアの首都クアラルンプールで開催された「ASEAN（東南アジア諸国連合）首脳会議」にて、ようやく11番目・最後のASEAN加盟国になることが出来ま

した。

東ティモールが正式にASEAN加盟を申請したのが2011年3月ですから、何と14年7か月の長きを要しました。これまでの加盟国で、こんなに長くかかった国はありません。それだけに、インドネシアとの独立回復闘争の目を覆う激しさと惨劇、破壊の代償がいかに大きかったか、また、ようやく勝ち得た2002年5月20日の独立回復以降、懸命に汗をかき続けている国づくり・人づくりが容易ならざるものであることを如実に物語っています。

同時期にクアラルンプールで開催された「日・ASEAN首脳会議」には、高市首相が出席。その席上、東ティモールのグスマン首相は、ASEAN加盟を祝福する高市首相の手を握り挨拶のキスをされ、熱いハグを交わされました。両首脳の満面の笑顔をテレビニュースでご覧になられた方も多いと思います。両国関係の新たなスタートを象徴するような嬉しい光景です。

「山椒は小粒でもピリリと辛い」が如く、地政学的に重要な場所に位置する東ティモールは、そのしたたかな外交力と途上国に対する卓越したリーダーシップを誇ると共に、資源小国日本にとって極めて重要な天然ガス供給国でもあります。

しかし、2002年の独立回復以降、日本の首相は誰も東ティモールを訪問していません。ASEAN重視を掲げる高市首相には、ASEAN加盟国として初めて本年を迎えている東ティモールを、速やかに訪問して頂きたいと思います。

東ティモールは、長野県より少し大きな全国土面積に、約150万人が暮らすアジアで一番新しい小さな国です。その平均年齢は、21歳。30歳以下の割合は65%。若い人材が豊富です。ちなみに、一人の女性が生涯産む子供の数を示す合計特殊出生率は、何と4.0。人口増は右肩上がり続けており、加速的に少子高齢化が進む日本とは真逆の国です。

そんな若い国・東ティモールと「日本を支える地

方都市・伊那市」にとりまして、本年が、新たなウイン・ウイン関係構築への幕開けになることを願って止みません。

(日本東ティモール協会会長、  
東ティモール名誉総領事)



ASEAN加盟周知レセプション (2025年10月27日)  
ヴィエガス (Ms.) 駐日東ティモール大使 (写真中央)  
主催 (写真提供：駐日東ティモール大使館)